４　今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方について

（当協議会の考え方）

・これからの時代を生きる伊勢志摩地域の高校生にとって、自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力の育成とともに、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる多様な学び、学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び、地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び、それらの学びの質を高めるための一人ひとりへのきめ細かな関わりが必要です。現在、当地域における高校の１学年の総学級数は 32 学級ですが、令和３年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和 19 年度には 18 学級から 21 学級に減少することが見込まれます。そのため、現在の９校 10 校舎の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要となります。

・今後、令和 19 年度までの 15 年間における伊勢志摩地域の高校の配置と活性化方策については、この期間の生徒の減少状況をふまえ、当地域全体を見通した具体的な検討を進めるとともに、必要に応じて、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、中学生への事前の周知についても検討することとします。その過程にある令和６年度の生徒減については、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、さらに小規模化が想定される高校の学びを支えながら、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましいと考えます。

南伊勢高校については、令和５年度に南勢校舎の全生徒数が 10 人程度と見込まれ、今後も生徒増が見込めない状況であるため、令和６年度から南勢校舎を募集停止とすることはやむをえないと考えます。募集停止後は、引き続き南勢校舎に在籍する高校２、３年生の生徒が度会校舎の生徒と共に学ぶ機会を増やすとともに、南勢校舎を活用して通信制高校のサテライト教室を設け、学習支援の環境やこれまで培ってきた地域での学びを提供することについて、ニーズ調査や研究を進めていくことが望ましいと考えます。

令和１９年度をみすえた伊勢志摩地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について（当協議会の意見）

令和５年度	令和６年度	令和８年度	令和 10 年度	令和 19 年度
33 学級	**29 学級**	**28 学級**	**24～25 学級程度**	**18～21 学級程度**
地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の令和 3 年度出生者数 1,199 人
1,928 人（現中３）	1,723 人（現中２）	1,716 人（現小６）	1,572 人（現小４）	
	前年度比▲205	前年度比▲39	前年度比▲159	

宇治山田高校　（普５）
伊勢高校　（普７）
伊勢工業高校　（専４）
宇治山田商業高校（専５）
明野高校　（専４）
南伊勢高校　（普２）
南勢校舎・度会校舎
鳥羽高校　（総２）
志摩高校　（普２）
水産高校　（専２）

→ **伊勢志摩地域の県立高校（全日制）**
水産高校　（専２）

→ **伊勢志摩地域の県立高校（全日制）**
水産高校　（専２）

→ **伊勢志摩地域の県立高校（全日制）**

→

15 年先を見すえた当地域の高等学校の学びと配置のあり方

（これからの当地域の高校生に必要な力や学び）

- 大学進学や就職などの進路実現につながる多様な学び
- 学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び
- 地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び
- 一人ひとりへのきめ細かな関わり
- 自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力
- 将来、地域の担い手となる人材や地域に戻って活躍する人材の育成につながる学び

（こうした学びを実現するための配置の考え方）

- 現在の高校配置の継続は困難となり統合は避けられない
- 専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持

学科の割合
（令和５年度）

普通科	48.5%
専門学科	45.5%
総合学科	6.1%

令和５年度をめどに方向性

令和７年度をめどに方向性

※令和６年度以降の学級数については、伊勢志摩地域における県立高校と私立高校の募集定員の比率、中学校卒業者が市町を越えて高校進学する比率等が、現在と大きく変わらない場合の予測に基づく。
※中学校卒用予定者数は、令和４年５月１日時点の教育政策課による予測数値

今後の協議にあたり検討や配慮すべき事項

- 地域の小規模校がこれまで果たしてきた役割を大切にしながら、学校個別ではなく地域全体で高校の学びを考えて統合を協議していくことが必要
- 交通が不便な地域における学びの機会の提供方策
- 中学生への事前の周知
- 定時制、通信制課程の学びの活用
- 規模が小さい学校や近くの学校を求める生徒の思いへの配慮

（３）これからの紀南地域の高等学校に求められる学びについて

これまでの協議やアンケート結果をふまえ、これからの紀南地域の高等学校に求められる学びを整理したうえ、令和７年度に想定される５学級規模の学びと配置について、第５回、第６回に協議を行いました。

紀南地域の高校がめざすべき教育や役割に係るこれまでの議論について

・学びの選択肢が充実し、生徒が自ら学びたいと思える学校
・生徒の進路実現に向け、大学進学や地元への就職にも対応できる学校
・様々な団体と連携する活動が充実し、全国に誇れる魅力ある教育活動を行う学校
　（地域の産業や企業と連携した学び
　小中学校、大学等の地域の教育機関と連携した学び　等）
・様々な支援が必要な生徒をはじめ、一人ひとりへの丁寧な指導により自己肯定感を高める学校
・ICT を活用して地域外ともつながる学習活動が充実している学校
・学校行事や部活動が活発化している学校
・集団の中で多様な考えや価値観に触れながら、豊かな社会性、人間性を育む学校

中学生や保護者へのアンケート結果について

（中学生、保護者の少なくとも一方の割合が 50%以上、またはあわせた割合が 35%以上）

・進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択できる教育
　中学生 73 人（30.4%）、保護者 270 人（65.1%）あわせて 343 人（52.4%）
・自分の将来を選択する力を育てる教育
　中学生 135 人（56.3%）、保護者 170 人（41.0%）あわせて 305 人（46.6%）
・社会性や協調性、コミュニケーション能力を育てる教育
　中学生 71 人（29.6%）、保護者 176 人（42.4%）あわせて 247 人（37.7%）
・多くの人と出会うことを期待している
　中学生 138 人（57.5%）※保護者への質問事項はなし

（中学生、保護者の少なくとも一方の割合が 40%以上 50%未満、またはあわせた割合が 25%以上 35%未満）

・５教科など中学校で学習する内容を深める学習
　中学生 99 人（41.3%）※保護者への質問事項はなし
・自ら学び続ける力を育てる教育
　中学生 63 人（26.3%）、保護者 158 人（38.1%）あわせて 221 人（33.7%）
・社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育
　中学生 56 人（23.3%）、保護者 114 人（27.5%）あわせて 170 人（26.0%）
・通学しやすい
　中学生 75 人（31.3%）、保護者 94 人（22.7%）あわせて 169 人（25.8%）
・大学進学につながる学力向上を目指した学習
　中学生 51 人（21.3%）、保護者 114 人（27.5%）あわせて 165 人（25.2%）

※中学生は 240 人、保護者は 415 人が回答していることから、あわせた割合は分母を 655 人として算出

●これからの紀南地域の高校に求められる学びについて

・多様な進路に応じた学びの選択肢が充実し、生徒が主体的に学べる学校
・校内外の生徒や社会とのつながりの中で、社会性や協調性、コミュニケーション力を育む学校
・学校行事や部活動が充実し、生徒が活発に活動できる学校
・多様な生徒１人ひとりに丁寧に対応したきめ細かな指導が充実している学校

４　令和７年度の５学級規模における学びと配置のあり方について

・中学校卒業者数が減少していく中にあっても、地域の様々な分野で活躍できる人材を育成する視点を大切にして、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる学びとともに、多様な生徒に応じて地域と連携したきめ細かな学びを提供する。
・多様な学びの選択肢の提供や豊かな社会性・人間性の育成、学校行事や部活動の充実のためには、一定の学級規模や学校運営の工夫が必要である。
・地域と連携したきめ細かな学びについては、木本高校及び紀南高校それぞれで先駆的に取り組んできた活動を継承する。
・令和７年度に地域全体で１学年の総学級数が５学級となる中、こうした学びを実現するためには、２校を一体的に運営するとともに、これまでのきめ細かな学びを継続できる高校としていく必要がある。
・以上のことから、木本高校と紀南高校は一つの高校に統合し、それぞれの校舎を活用した校舎制とすることとする。学科については、普通科３学級を木本校舎に配置し、総合学科１学級を木本校舎及び紀南校舎にそれぞれ配置する。
・今後、各校舎で学習することを基本としつつ、両校舎が一体となった活動や連携した授業も行うこと、学校行事や部活動がより魅力的で少しでも多様な活動となるようにすること、教員や生徒が必要に応じて両校舎間を行き来すること、教職員が校舎・学科・課程の枠を越えて連携することなどについて、関係者で具体的な内容と方策を検討する。

＜　参　考　＞

令和４年度　協議会の開催日

第１回　令和４年　６　月　７　日（火）
第２回　令和４年　７　月１４日（木）
第３回　令和４年　８　月３１日（水）
第４回　令和４年１１月　８　日（火）
第５回　令和４年１２月１３日（火）
第６回　令和５年　２月　７日（火）